

## 水に感謝の気持ちを

私の学校には、数年前から冷水機が設置されている。全校生徒で集めた、ベルマークで購入したものである。冷水機を買うためには十万点が必要だったが、「暑い夏にすぐ水が飲めたらいいなあ」という思いで皆一生懸命集め続けた。その結果、今の冷水機を購入することができた。だから今は、体育の授業の後や、外で何か作業をしているのが渴いた時に、飲みたい時にすぐに水が飲めるようになったのだ。それは私たちにとって、とても嬉しいことである。しかし、反対にすぐに水が手に入るようになったことで、水が飲めることへの感謝の気持ちを忘れてしまったのではないかと思う。私たちは、水がすぐ手に入ることによって水の価値を低く見ている気がする。私の家で

山添村立山添中学校 三年

浦久保 美歩

もまた、そう感じるときがある。私の家には食器洗い機がある。食器洗い機が無い頃は、私もときどき母の手伝いをしてきた。しかし、食器洗い機を購入してからは洗い物はすべて機械がやってくれるので、手伝う必要が無くなった。洗う手間が省けた分母は別の家事をすることが出来るようになった。だが、食器洗い機に任せている分、私たちは、機械がどれくらいの水を使っているのか知らない。今までだったら、食器を洗うとき、どれくらい水を使っているか確認できたし、水を大切にしようとする気持ちもあった。今の私たちの身の回りには、とても便利で良いものがたくさんある。けれど、それらは水を大切にしようという気持ちを薄れさせてしまっているのではないだろうか。

「水の惑星」と言われている日本だが、私たちが簡単に使える水は意外と少ない。なぜなら、その水の約九七％は海水だからである。そのため、私たちが簡単に使える水は、約0・01％しかないのである。また世界では、安全できれいな水が手に入らず、およそ十一億人の人々が苦しんでいる。水問題は、今の国際社会において重要な課題のひとつなのだ。そんな中で、私たちは一滴でも水を無駄にしなくても良いのだろうか？

今の現代社会は、昔に比べれば、とても便利になってきている。しかしながら、便利な世の中になるにつれて、私たちは、何か大切なことを忘れかけている気がする。

「きれいで安全な水が手に入ることに感謝する」

「水を大切にする」

そんな、当たり前の気持ちを私たちは失いかけていると思う。

「水を当たり前のようを使うことができる」  
「そんな生活が出来ることは、当然のことのように思いがちだが、実はとても幸せなことなのだ。便利な世の中に生きている私たちだから」

からこそ、水を無駄にしないように心がけていこうと思う。そして、水に感謝することを忘れずに生活していこうと思う。